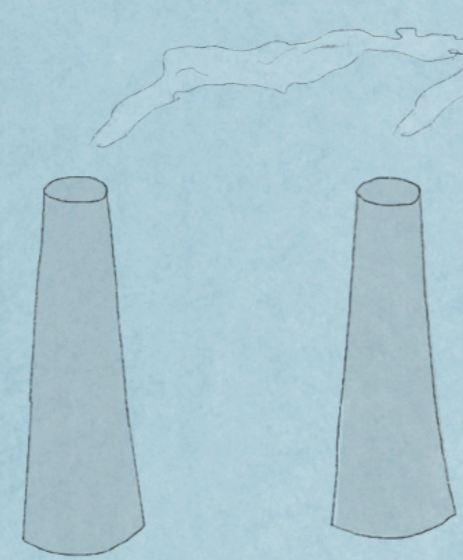
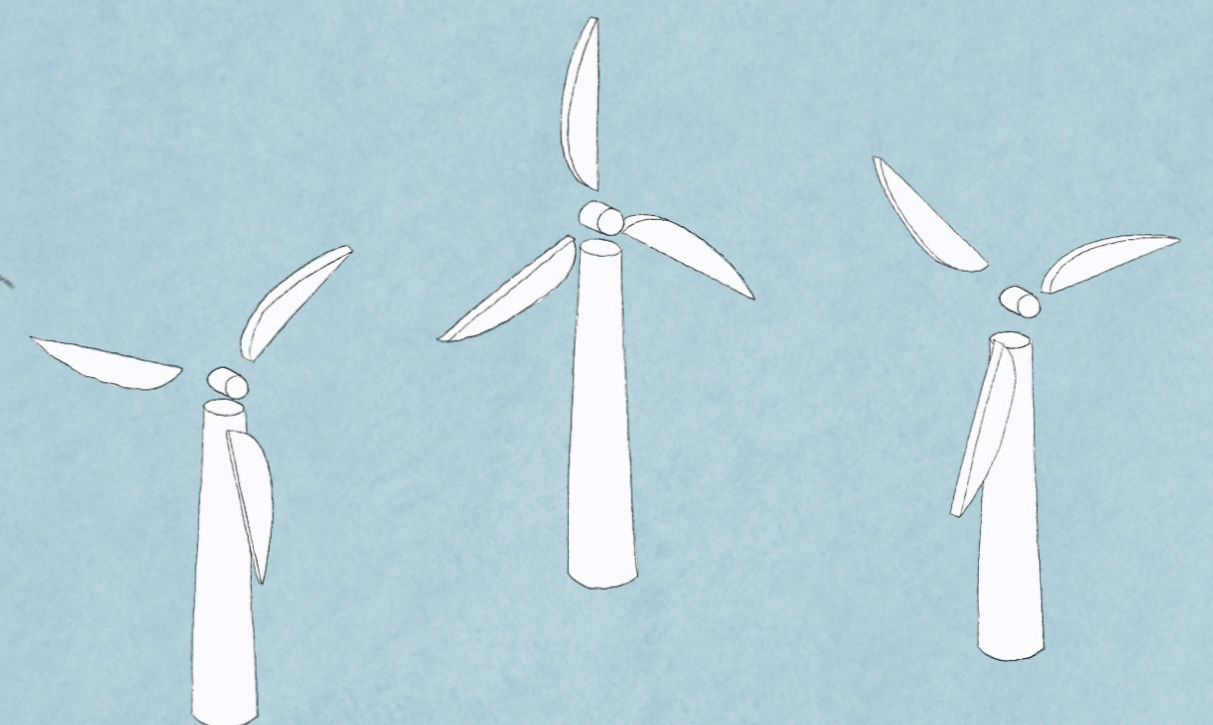


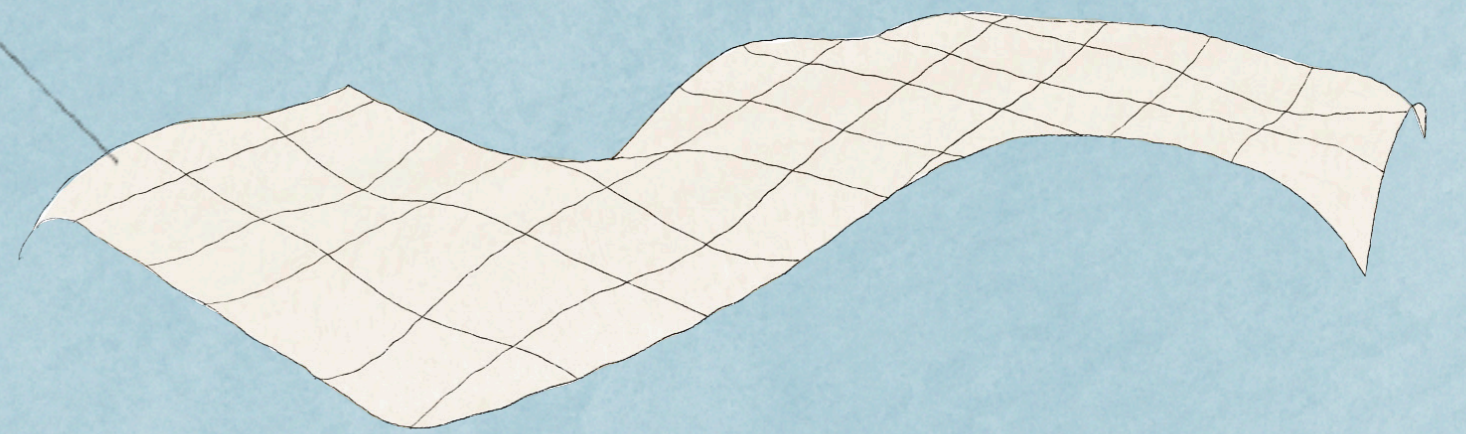
火星においてごみ処理施設を計画する。



プロペラ  
太陽風を利用した発電を行う



膜構造  
太陽風により大気が吹き飛ば  
されないよう保護する

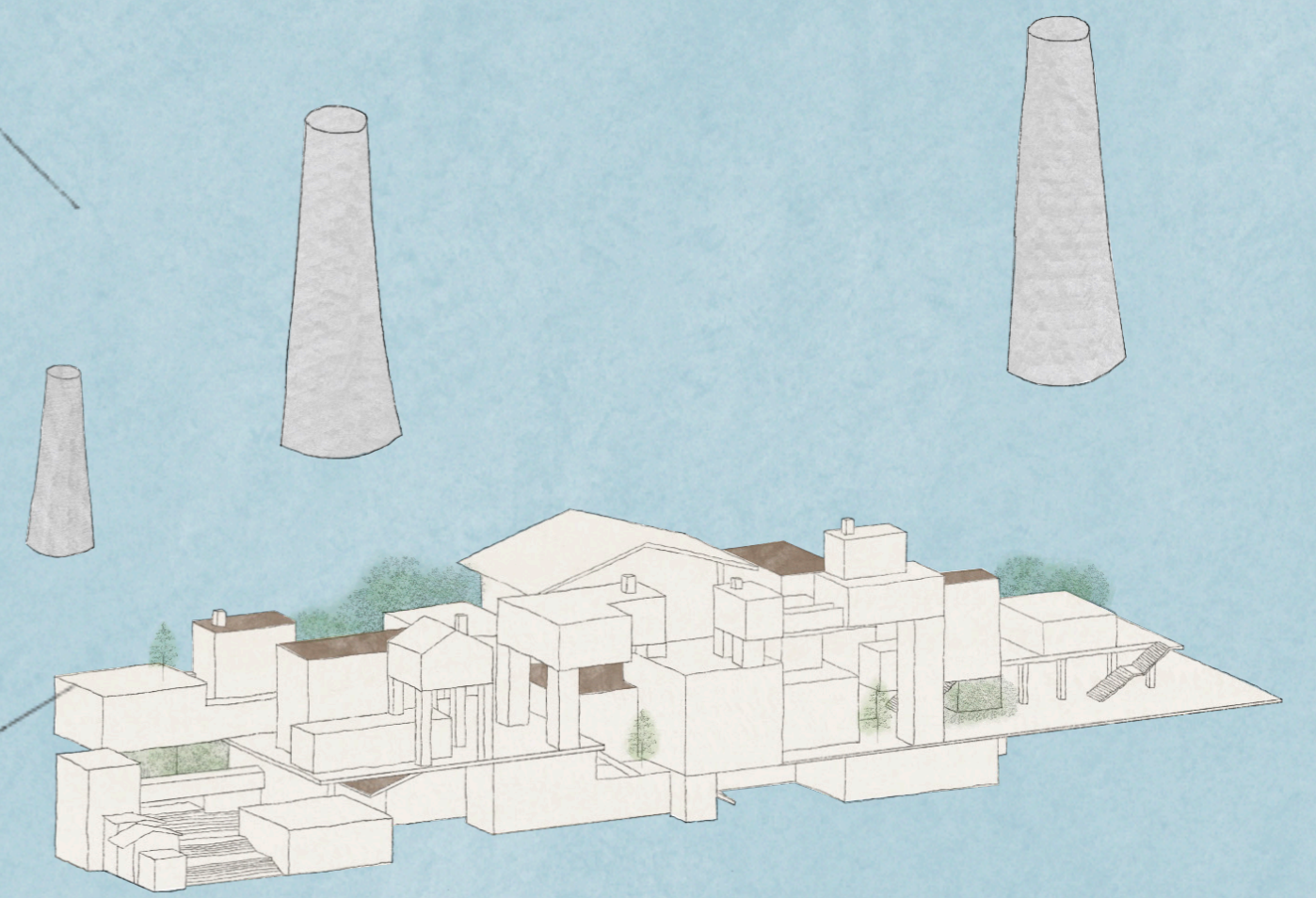


植物の光合成により、  
焼却時に排出された  
CO<sub>2</sub>がO<sub>2</sub>に変わる。  
(大気形成)



ごみの量が増えるほど、火星の  
重量が大きくなり、重力が増加  
する。(重力形成) 宇宙と地球  
での生活の隔たりが小さくなる。

煙突



居住空間

隙間となる空間には緑地および畑を計画する。滞在ではなく「住まう」ことを意識した地球での日常を建築化した

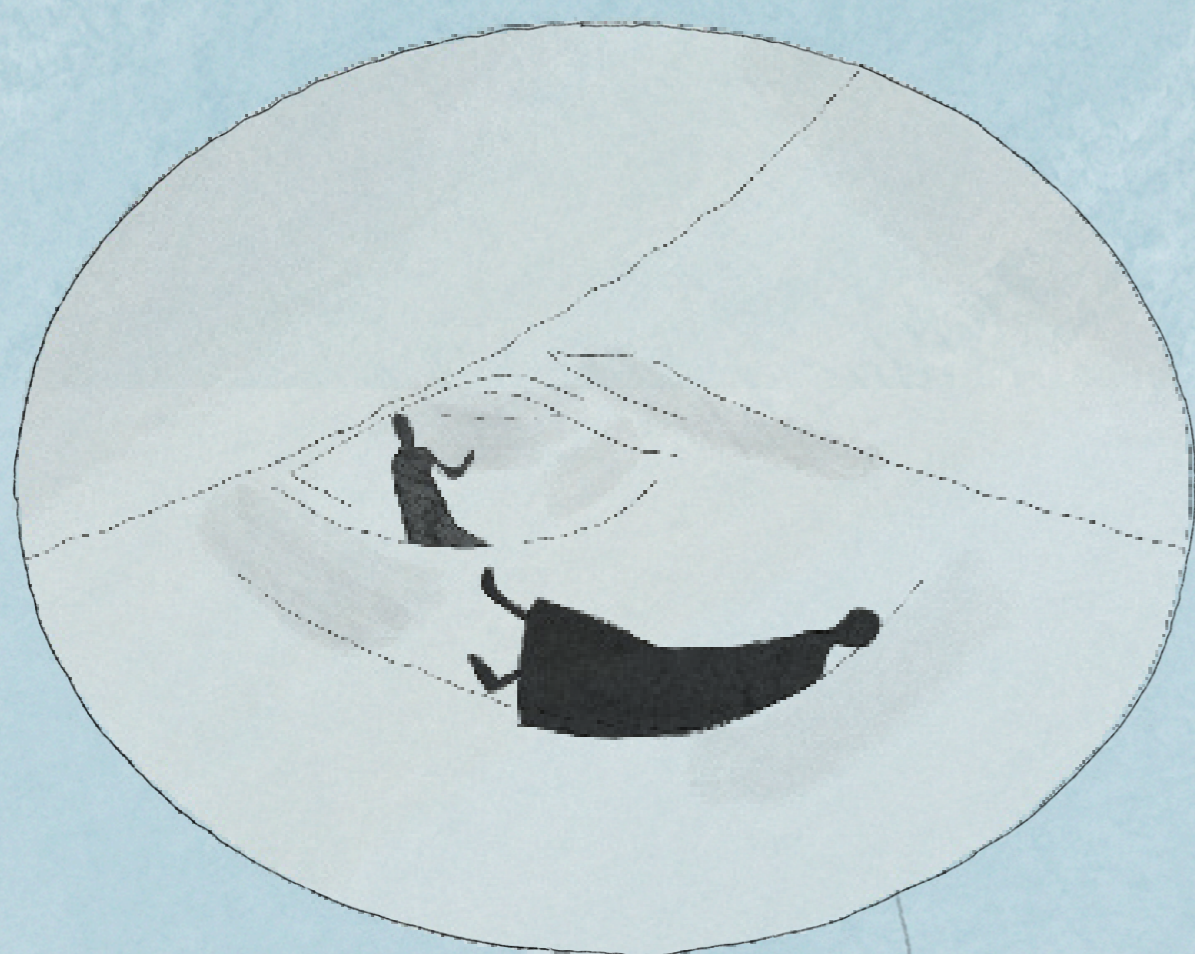
$$F = \frac{GMm}{r^2}$$

上部になるほど、重力の影響が小さくなり、  
膜構造によって宇宙ならではの自由な造形  
が可能になる

「宇宙人の住まい方  
地球人の住まい方」

「宇宙 ごみ焼却場」× 人工大気 「膜大気」

火星において、ごみ焼却施設を計画する。  
宇宙 ごみ焼却場から焼却時に排出される  
CO<sub>2</sub>と膜構造を利用して、火星上に大気を  
形成する。太陽風により宇宙空間へ吹き出  
されないように、生活空間を膜で覆い、人  
工的に大気をつくる。



断面図 兼 立面図

宇宙エレベータのような技術革新により、かつては遠い存在だった宇宙が、私たちの日常に近づいてきている。宇宙飛行士だけが訪れる宇宙は、今では誰も宇宙の生活を想像できるようになった。しかし、地球に帰還した宇宙飛行士がしばらく歩けないように、宇宙での生活と地球での生活の間には大きな溝があるのではないか。この新たな時代において、宇宙と地球が分断されずに共生するために、重力・大気に着目し、宇宙空間、特に火星での居住環境の構築を提案する。